

「ツマグロヒョウモンのサナギ」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

ツマグロヒョウモンは、アゲハやモンシロチョウよりも、幼虫～サナギの出現期間が長く、1学期から夏休みにかけて観察が可能である。今の時期、子どもたちはよく幼虫を見つけるが、もっと人気があるのがサナギである。



サナギの表面には、金属光沢を持った突起が、2列に並んでいる。この金色の突起が人気の秘密だ。



前回、幼虫を持ち帰った女の子が、「こないだの幼虫がサナギになったんだけど・・・端っこに幼虫がはみ出して、完全にサナギになってないの」と、飼育ケースに入ったサナギを持ってきた。よく見れば、黒

い部分は、幼虫がはみ出したものではなく、蛹化する時、最後に脱皮した殻である。しかし、アゲハのサナギとちがって、ツマグロヒョウモンのサナギは、お尻の部分一ヶ所でぶら下がる形である。ケースの底にころがってはいは、うまく羽化できないのだ。



子どもたちが採ってくるサナギは、ほとんどが壁や枝からはぎ取ってきたもので、「サナギ単体」である。こういう場合は、サナギのお尻の部分にタコ糸を結び、壁や飼育ケースの天井にぶら下げておくのが良い。



この方法で、ほぼ100%羽化に成功する。教室の中で羽化の一瞬に出会うチャンスも向上するわけだ。